

平成 21 年度日本医学図書館協会・協会賞奨励賞選考結果

1. 協会賞・奨励賞選考委員会

担当理事 小川 禮子（個人） 小野澤 繁雄（埼玉） 平 紀子（北療）
委員長 青木 仕（順天）
委員 大谷 裕（編集委員長）、押田 いく子（東邦）、遠藤 典子（東医）、
佐藤 淑子（東女）

2. 選考経過

平成 21 年度上記協会賞・奨励賞について公募締切日までに応募が無かったため、選考委員会委員より候補がなくなり、選考委員会において慎重に審査した結果、受賞者を下記の通り決定いたしましたので御報告いたします。

3. 第 81 回(2010 年) 協会賞・奨励賞 選考結果

【協会賞】

該当者なし。

【奨励賞】

中山 栄美子(岡山大学附属図書館)

海外の図書館を通して考えられるこれからの図書館：特に利用者の視点から
医学図書館 2009;56(1):45-52

【推薦理由】

著者は長年に亘り、日本ほか米国・北欧諸国・英国・韓国およびカナダなど合わせて約 400 の図書館を訪問し、今までにも 6 編の記事をベテラン図書館員ならではの視点から報告している。著者は岡山大学附属図書館鹿田分館に在籍していた頃から、医学図書館誌にこのテーマについて一貫して精力的に報告している。今回の論文では各地の図書館を見学し、学術を通して人々が交流する場としての図書館について、図書館員の視点から、将来の図書館のあり方を提言している。図書館のサービスは、図書館の内部だけの問題と捉えがちだが、図書館を取り巻く環境にも目を向けているのが斬新である。良い環境の中にある機能的な図書館は、利用者や職員にとってひとつの理想のかたちであり、図書館運営の目標でもある。一方、視点を変えて図書館を環境の中に置いて外観した場合、図書館の存在は環境をよりよくするためのひとつの要素になることが理解された。

本論文は、建築物としての図書館、図書館と環境との調和、そして日々著しい進歩がみられる、図書館ホームページについて紹介している。そして、最後にこれからのあるべき図書館員の姿として、優秀な人材の輩出に寄与する有能な司書の必要性を提言し、具体的な将来の司書の仕事について言及している。本論文は、示唆に富む論文であり、奨励賞に値するものである。

【奨励賞】

園原 麻里(慶應義塾大学信濃町メディアセンター)

ガイドライン作成のための文献検索手順と検索技法：介護予防に関する科学的知見の収集および分析委員会における文献検索を一例として

医学図書館 2009;56(4):301-7

【推薦理由】

特定非営利活動法人日本医学図書館協会は、学会からの受託事業の一環として種々疾病の診療ガイドラインの作成に寄与している。著者は、厚生労働省老人保健事業推進費補助金において実施している「介護予防に関する科学的知見収集および分析」に関わっている。著者はその診療ガイドラインの作成に当たり、ガイドラインワーキンググループの一員として文献検索作業を担当した経験を紹介し、作業がどのように行われているかその過程と方法論を詳細にまとめている。診療ガイドライン作成業務は、医療者と図書館員の共同作業であり、医学図書館員としての技量の問われるチャレンジングな業務である。診療ガイドライン作成業務は今後の医学図書館員の活躍の場を広げることにつながる有意義な仕事である。この論文は非常に分かりやすくまとめられており、著者が、日ごろ自己研鑽され意欲的に業務をされていることが推察される。作業に際して、研究者との意思の疎通や効率的な検索のためには、EBMの知識と文献検索データベースの操作方法の習得が重要であると述べている。本論文は、今後診療ガイドラインを支援する新たな医学図書館員にとって有用なツールになると思われる。以上の理由から本論文は、奨励賞に値するものである。